

Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo

LEONTODO

N-ro Ekstra

覆刻再刊

北海道エスペラント 運動小史

〒053-0844
苫小牧市宮の森町
2-18-18

星田 淳

We Support

unicef 

LEONTODO n-ro ekstra

1974年 9月 15日発行

発行所 北海道エスペラント連盟

060 札幌市中央区南2.西4. 中央タイピスト学院内
TEL 251-4750
振替口座 (小樽) 17075

編集

「北海道エスペラント運動小史」覆刻刊行準備委員会

tajpis; Kitabatake H.

配布価 200円

9-1974

HISTORIO
DE
ESP.-MOVADO
EN
HOKKAIDO

HOKKAIDO
ESPERANTO-
LIGO

ENHAYO

札幌エスペラント運動小史	1 頁
函館エスペラント運動小史	5
エスペラント普及会北海本部史	11
苫小牧エスペラント運動小史	21
小樽エスペラント運動小史	25
帯広エスペラント運動小史	27
旭川エスペラント運動小史	28
後 記	30

北海道エスペラント運動史年表

札幌エスペラント運動小史

★1904(明治三十七年)

この頃札幌農学校に図画の教師をして居られた飯田先生は、同校及北海道師範学校の学生に、エスペラントの国際語として極めて適切なる所以を宣伝せられた。しかし同氏がエス語の購習をなされたか否かは不明である。

★19

南二条西三丁目の齒科医某氏がエス語を研究されて居たとのことであるが確なことは解らない。

★1912(大正元年)

三田智大氏札幌に來住さる。

★1915(大正四年)

三田智大氏某古本屋にて「長谷川二葉亭 世界語」第四版明治三十九年八月発行を入手された。この本は明治時代の札幌人が研究した遺物と推定される。

★1919(大正八年)

× 三田氏はこの年より本格的な研究を始められた。又ドイツ語輪読会の会員達にエス語の共同研究を相談したが成功しなかつた。

× ドイツ語教師のスイス人ハンス・コーラー氏がエス語を宣伝されたとの説もあるが、同氏は「エス語はキンデルシュプラーヘ(Kinder Schprach)と言つてやさしい言語である」と言つた。又これ以上の理解もなかつた。

× 北大予科の寄宿舎の娯楽室で毎週二回三田氏の指導の下に学生が十人ばかり集まつてエス語を研究した。二月中旬には「北大エスペラント会」が生れた。

× 五月に高橋邦太郎氏がミスマイの発電所工事のため來札され、北海タイムス紙上を通じてエスペラントの宣伝につとめられた。

× 三田氏は卒業論文の摘要をエス語で書かれた。

× 六月に三田氏北大を卒業、東京に転住された。

★/920(大正九年)

- × 五月二十五日 鉄道集会所にて小坂猶二氏の宣伝講習会あり。出席者百五十名、後同氏の歓迎晩餐会を持つた。
- × 五月より日本エス学会よりRO発行され高瀬正栄氏は以前より独習されて居たが直に入会された。
- × 六月 札幌エスペラント研究会生る。
- × 六月二十九日より第一回講習会、受講者百八十六名、多数につき第一部は中等学校卒業生、二部はそれ以下の人達と二つに分けた。第一部は二十九日火曜日八十八人内十人は婦人、第二部は金曜日、講師は三田智大氏、高瀬正栄氏、用書はクルス・リプロ、会場は双葉幼稚園を一夜三円で借り又電気会社より電燈の寄附があつた。
- × 十月 第二回講習会、参加者十一名 其他前同様

★/921(大正十年)

- × 二月 第三回講習会、参加者八名 用書エスペラント模範練習読本 瀧美雄氏学会に入会
- × 三月 三田氏帯広に転住、その後菊本、長浜、藤原、小田切、興村等の諸氏週に一回集会を行つてゐた。中でも興村氏は最も熱心な同志であつた。
- × 八月のROによると当時の本道の学会々員数は次の通りである。札幌25、函館2、小樽4、室蘭1、夕張り1、倶知安1、琴似1
- × 十月 安藤勇吉氏入会。この当時最も熱心であつたのは三田氏、興村氏、高瀬氏等であつた。

★/922年(大正十一年)

- × 四月 田上政敏氏入会、安藤氏は室蘭に去られた。
- × この当時の学会々員は次の通りであつた。札幌27、函館21、小樽6、室蘭3、其他9

★/923(大正十二年)

- × 六月二日 東京より石黒修氏、岡本好次氏、佐々木孝丸氏等宣伝隊として来札、同日石黒氏は市立高女で講演
- × 六月三日 農林の生徒百余名に岡本、中村両氏講演、有合亭で歓迎会七時より時計台で中村、豊川、佐々木、石黒、岡本(エス語訳は中村氏)

の諸氏の講演があつた。札幌堂書店主より立板、ポスター200枚、とら5,000枚の寄附があつた。

- × 六月四日 石黒氏は市立高女で、豊川氏は吏員養成所、師範で講演、午後七時三十分一行は札幌を立たれた。中村氏は英国の同志 Roscoe 氏が北大で講演をされるのでその通訳のため滞在
- × この年の学会々員数は、札幌30、函館15、小樽7、室蘭9、其他27

★/925(大正十四年)

- × 五月(?) 長浜氏東京に去らる。札幌エスペラント研究会はここに自ら解消し間もなく札幌エスペラントクラブとして更生す。

★/928(昭和三年)

- × 十月 函館営林区署の井深仁氏札幌に転住せらる。

★/929(昭和四年)

- × 二月二十六日 北大学生集会所にて北大エスペラント会総会を開く。同総会にて札幌エスペラント会結成さる。
- × 四月二十五日 第一回例会開催
- × 五月二十日 北大にて講習会、参加者約五十名、又秋田寮内で花田氏学生に講習。
- × 六月二十九日 ⑤記念館にてエスペラントと音楽の夕を開催。引続き白樺にて講習会を開く。
- × 九月二十三日 エスペラントのマツチペーパーを作る。
- × 十月十一日より札幌市内に講習会を鉄道集会所で開く。講師一田上、花田、河野三氏、受講者三十名
- × 十月二十三日 札幌エスペラント会生る。会員四十余名。会長平野子平氏
- × 十月二十九日 臨時総会を開催す。例会は今后札幌と一緒にする事となる
- × 十一月二十一日 札幌簿記学校にて同校学生に対して講習会を開催、講師 前田、河野、藤近三氏
- × 十二月十五日 第一回ザメンボフ祭
- × この年の学会々員数次の如し。札幌27、函館26、小樽5、釧路2

旭川2、帯広4、山部5、其他20

★/930(昭和五年)

- × 二月六日 臨時会合、以後毎月第 木曜に茶話会、其他の木曜日は札鉄と合流する。
- × 四月二十四日 日本医大の同志佐竹結実氏来訪
- × 六月十二日 札鉄集会所にて例会
- × 六月十五日 大通小学校で開催された希望社総会にて田上氏エス語に関する講演
- × 六月十九日 白樺にて総会開催。札幌エス会、札鉄エス会、札幌希望社エス会、北大エス会および其他の個人も入れて札幌エスペランティスト聯盟を結成した。
- 札エス、札鉄エス会では第一第三木曜日は白樺にて、その他の木曜日は鉄道集会所にて例会を開く事となる。会費年額五十銭、当日集会者十五名
- × 九月五日 希望社主催の講習会終了 受講者20名
- × 十月八日 秋季総会を白樺にて開く。以後集会日を水曜とす。
- × 十二月十五日 ザメンホフ祭 出席者十五名

★/931(昭和六年)

- × 二月十一日 会員山本佐三氏単身渡欧しオックスフォードに開催された二十二回万国エス大会に出席し又欧州各地を遍歴したる旅行談あり。
- × 札鉄エス会長平野氏仙台に赴任
- × 二月二十二日 ④記念館にてエスペラント展覧会及講演会開催。講師山本佐三氏、参会者二百名
- × 三月四日 山本佐三氏の講演会後受講希望者多数参会したので白樺にて初等講習会を開く事となつた。
- × 六月十七日 千秋庵にて臨時大会、白樺は使用出来ぬ事となつた。
- × 七月一日 毎水曜、札鉄食堂にて例会開催
- × 七月二十三日 幹事鶴近氏多用にて以後鎌田氏幹事となる。
- × 九月二十三日 臨時総会を開き常設事務所設置に決定し太田兄弟が半額を負担し会で五円を負担する事。事務所には太田兄弟が起居する事
- × 九月三十日 常設事務所にて第一回の集会

~ 4 ~

- × 十月四日 事務所管理人太田民明氏行方不明となる。始めて会が利用された事に気が付いた。
- × 十月五日 事務所に怪しげな男が起居して居た。警官に追はれた社会主義者なりという。相沢は立退を命じた。
- × 十月二十八日 相沢が部屋を借り会より月五円の補助を出す事となつた。
- × 十二月十五日 明治製菓にてザメンホフ祭

★/932(昭和七年)

- × 一月一日 鎌田氏用務多忙のため相沢事務引継ぐ。
- × 一月十五日 エス会、札エス聯盟の別を明らかにした。
- × 二月十七日 農村放済費合計七円三銭をタイムス社を通じて寄附した
- × エス聯盟加盟団体は札幌エス会、札鉄エス会、北大エス会、希望社エス会
- × 四月二十九日 第一回座談会を開催
- × 五月四日 博品館にて初等講習会 毎週水曜 講師相沢氏
- × 七月二十三日 東北大学医学部太田松一氏来札
- × 八月五日 相沢氏山部にて開催の第一回全道大会に出席す。
- × 八月十四日 ヨセフ・マヨル氏大会よりの帰途来札され札幌放送局より「日本とハンガリアの友情」を放送した。
- × 八月二十五日 第二回の座談会を兼ね、マヨル氏の歓迎会を催す。出席者二五名
- × 十月七日 大本教会にて初等講習会開催 講師相沢
- × 十二月十七日 千秋庵にてザメンホフ祭

★/933(昭和八年)

- × 六月二十日 日本植民学校にて講習会、参会者三十名、講師中村久雄氏
- × 六月三十日 講習会終了し後浪越春雄氏方にて輪談会
- × 九月二十三日、二十四日 第二回全道エス大会札幌にて開催
- × 十一月十八日 中村久雄氏京都に赴任される事となり来札を機会に送別会を千秋庵に催した。又当日赤化排斥の決議をした。
- × 十二月四日 講習会を開催したが全く失敗した。出席者二人。速記術

~ 5 ~

の講習会に合流したのが失敗の原因である。

- × 十二月二十一日 明治製菓にてザメンホフ祭、小樽より福田仁一氏出席

★/934(昭和九年)

- × 一月十四日 初等講習会開催せしも出席者一人もなし。
- × 一月十五日 浪越氏の宅を使用出来ぬ事となり相沢宅にて研究会を開く事となる。
- × 五月十六日 フェドロチャック氏来札、明治製菓にて歓迎会を開く。
- × 六月一日 ラ・ウールソ第一号発刊
- × 八月一日 ラ・ウールソ第二号発行
- × 八月二十一日 大会打合せのため相沢自転車にて小樽訪問。福田氏、中村久雄氏に会ふ。第二十四回の日本大会を札幌で開催せられる様話される。
- × 九月四日 札幌エス会総会を明治製菓で開催。以後会費は年一円にする事。全道大会に五円寄附する事を決定した。吉田氏札幌を去られる事となりその送別会も兼ねる。
- × 九月二十三日 小樽にて第三回全道大会、札幌よりの参加者は瀧美、相沢、木村、佐藤、吉田、三崎、仁岸、小森、関口、阿部、村山、田丸の諸氏
- × 十月十四日 札幌エス会と合同で円山へピクニックを行ふ。
- × 十月二十五日 ポーランドより農事試験場あてにエス文の公文書が来た。
- × 十二月十六日 ザメンホフ祭。参加者二十名。プログラム、ハムレットの説明書等を前田氏の努力により印刷す。佐藤氏参加者全部にフアミリアカルトを贈る。

★/935(昭和十年)

- × 一月九日より集会毎週水曜
- × 一月二十日 山部の中村氏小樽の苗村恵美子嬢と結婚せられたので本会より賀状を差上げた。
- × 二月七日 中村氏より賀状の礼状をいただく。
- × 二月十三日 藤本五郎氏入会

- × 二月十七日 鉄道のエスと春巻山にメー一行した。

- × 三月六日 三笠山の細井氏来札
- × 三月七日 瀧美氏内地に赴任される事となりその記念として緑屋旗を寄附された。
- × 三月十三日 第二十四回日本大会期成委員会を結成す。
- × 三月十八日 瀧美送別会を明治にて開催
- × 三月二十三日 瀧美氏出札
- × 三月二十五日 札幌にて初等講習会開催
- × 四月十六日 渡部氏富山に赴任される事となり札幌に立よられた。
- × 四月十七日 渡部氏出札
- × 五月二日 中村久雄氏来札、大会について色々お話しする。
- × 六月五日 例会あり福田氏来札大会についての打合せをした。
- × 八月三日 帯広市にて第四回全道大会、札幌より相沢、三崎、佐藤の三氏出席、同大会にて日本大会招待の件其他的にまとまつた。
- × 九月十一日 永田秀次郎来札された。相沢、浪越、前田、木村氏等同氏を訪問
- × 九月十六日 日本大会出席のため相沢出札
- × 九月二十二日~二十四日 名古屋市に日本大会。本道よりの提案満場一致にて可決する。
- × 十月五日 明治に茶話会を開き日本大会の報告、その他打合せをする。苫小牧岡垣氏出席
- × 十月七日 鉄道エス会三崎氏富山に転勤となり送別会を開く。
- × 十月二十七日 来年度日本大会打合せのため相沢自転車にて小樽訪問

(相沢治雄 記)

函館 에스ペラント運動小史

★/92/ (大正十年)

×十一月 高桑氏鉄道員にエス語についての話をした。

×十一月十五日より二十五日まで火曜日に講習会を行ふ。鉄道員十四名参加

★/922 (大正十一年)

×七月 虎渡氏宅にて例会を催す。毎週月曜七時より

×当時学会々員は二十一名

★/923 (大正十二年)

×五月三十日 学会のエス語宣伝隊来る。三十一日公会堂で講演会

★/924 (大正十三年)

×一月 同志十四名集つて函館エス会を組織した。(Hakodate Esperantista Societo)

×四月一日より六日まで短期講習会。参加者二十五名

×四月十四日 ザメンホフ記念日として普及講演会を開催した。

×十月 日本大会を函館に招待する計画あつた。

×十月二日 第十二回の講習会を開催。講師高桑氏、二ヶ月間

★/925 (大正十四年)

×虎渡氏第十七回万国大会に出席す(スイス、ゼネバ)

★/927 (昭和二年)

×虎渡氏他界さる。

×十月 海軍中佐小森正鋭氏会長となる。

★/928 (昭和三年)

×一月十五日 短期講習会開催、講師小森、井上、宮田。参加者二十二名

×八月三日より夏期講習会を開催

★/929 (昭和四年)

×六月十一日 函館エス聯盟結成さる。

×八月三日 教育会の主催で講演会があつた。講師浅田一氏

×十月三日 第二回エス語雄弁大会を函館日日新聞社に開催した。

×十一月四日 函館エス会主催にて思想講演会を開く。

×十二月二十日 函館エス会及エス聯盟を合し函館エスペラント会を結成す。

★/930 (昭和五年)

×四月一日 レコードコンサートを開催エス語の宣伝をなす。出席者四十五名

★/931 (昭和六年)

×三月 小田島氏薬店を開店、看板、広告等にエス語を利用せらる。

×五月より六月にかけて高桑氏指導の下に初等講習会開催、出席者二十四名

×八月二日 学会理事河崎ナツ女史来館

★/932 (昭和七年)

×七月十八日 第二十六回講習会終了

×八月二日 全道大会出席のヨゼフ・マヨル氏の歓迎会

×八月五日 山部にて開催の第一回全道大会に小田島氏出席

★/933 (昭和八年)

×三月二十六日 栗田嬢の発起にて講習会開催。能登氏指導、参加十名

★/934 (昭和九年)

×三月二十一日 函館大火、聯盟本部より増田亮平氏見舞はれた。

★/935 (昭和十年)

×九月二十六日 札幌より相沢は日本大会よりの帰途立ちよられ吉田氏に來年度大会について話るところあつた。

(相沢治雄調査)

創立の由来

昭和3年7月、北海道の中心地、山部（ねむろ本郷、山部駅前、石狩国空知郡山部市街地）に京都府綾部町に総本部を、同亀岡町に本部を置く皇道大本の北海道別院が設置された。

皇道大本総統出口王仁三郎氏は早くからエス語を採用され、大正12年にはエスペラント普及会（EPA）を設立、全国的に普及、運動に尽力されて居たから、当時から北海道に於ても信徒間に多少の研究熱が起り、雑誌を購読したり独習書を繕く人達があつた。

然るに昭和4年2月、当時北大エス会幹事たりし中村久雄氏が同別院奉仕となりてよりは普及運動は次第に具体化するに至つた。

同別院には絶えず全道各地より修業行者が参集することゝて、時々希望者に対しては適宜講座が開かれた。そして同年7月12日には愈々本部の承認の下に同別院内にエスペラント普及会北海本部が設置された。役員としては代表者に田中省三氏（当時皇道大本北海道特派宣伝使）、幹事に中中他教氏が任命された。

II

運動の経過

前述の如くエスペラント普及会は京都市外亀岡町に本部を置き、日本及び海外各地に支部を設け、各地方運動促進の機関として居るが、北海本部には北海道に於ける普及会の事業を統率し、又比較的該運動に触れていない地方に新に普及のための運動を起すことに任じたのである。さてその運動の経過を講習会、講演会、展览会、演劇と舞踊、機関誌の各項に分つて概説することとし、特種行事たる第一回全道大会及夏季エス学校などに就いては節を新にして記載することとしよう。

1 講習会

爾来北海本部より講師を派遣し講習会を指導した記録を表示すると次の通りである。

地名	会場	時期	講師	受講者数	当時創立会名
1 おびひろ	公立小学校	4, 7	中村久雄	64	
2 下ふらの	同	5, 11	"	44	
3 旭川たかす	信用組合内	6, 4	"	35	EPAたかす支部
4 旭川	実科高女	7, 4	"	25	" 旭川支部
5 旭川たかす	信用組合内	"	"	15	
6 黒松内	郵便局内	7, 6	上野隆司	15	" 黒松内支部
7 釧路	くしろ第一小学	"	中村久雄	25	釧路エス会
8 留萌		7, 7	上野隆司	10	
9 旭川	実科高女	7, 9	中村久雄	20	
10 根むろ	信用組合内	7, 10	"	35	根室エス会
11 稚内	公立小学校	8, 1	"	35	EPA稚内支部
12 岩内	在郷軍人会館	8, 4	"	50	
13 札幌	日本殖民学校	8, 6	"	25	
14 函館	皇道大本支部	8, 9	"	10	
15 むろらん	商工会議所	8, 10	"	20	むろらんエス会
16 釧路	日進学校	9, 8	"	7	
17 名寄	鉄道機関庫	9, 10	増田亮平	6	
18 旭川	皇道大本支部	"	"	3	
合計	18回			434名	

備考

上記主催者名及その他

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1 EPAおび広支部 | 14 皇道研究会 |
| 2 北海本部・岡田千里氏も
講師に当る | 15 北海道エス聯盟 |
| 3 人類愛善会たかす支部 | 16 釧路エス会 |
| 5 同上 | 17 人類愛善会名寄支部 |
| 10 EPAねむろ支部 | |
| 11 人類愛善会稚内支部 | |
| 12 " 岩内支部 | |
| 13 札幌エス会 | |

~12~

北海本部に於ては平常講習を全道から集まる大本求道者に対して又地元居住者に対して行つたのである。又現在も行つて居る。今日までにその指導に当つた講師の氏名をあげると：

中村久雄氏
上野隆司氏 北大予・医・2年修了
増田亮平氏 横浜二中出身
堤圭介氏 旭川中学
大滝悦子さん 小樽高女
松浦保子さん 旭川高女

の諸氏である。

講演会

エスベラントに関する講演は北海本部に於てはしばしば繰返へされてゐる。その外に地方に於けるものの内特筆すべきものは

- 1；根室町花咲尋高に於て公開講演（昭和七年十月三日）聴講30名
2；岩内商業専修学校に於て職員生徒合計150名に対し

（昭和八年四月廿五日）

- 3；苫小牧工業学校エス会に於て20名に対し

（昭和八年四月廿八日）

- 4；寿都女子職業学校に於て50名に対し

（同 年九月十八日）

以上 講師 中村久雄氏

次に昭和7年夏北海本部主催の北海道第1回エスベラント大会に招聘の結果来道したEPA本部のヨセフ・マヨール氏は同じく同本部の井上照月氏を通訳として同道、大会後、次の如く講演会を開催多大の反響を与へた。

時期	場所	演題	聴衆数	備考
年月日				
昭和7.8.7	山部校	日本の初印象	60名	半公開大会3日目
7.8.9	おびひろ公会堂	日本文明の批判及上海事件実見談	400名	
"	"	世界的に普及されたエス語について	50名	座談

~13~

- 7,8,11 山部北大集会場 世界漫遊みやげ談 200余名
 7,8,12 旭川実科高女 日本の初印象 50名
 7,8,14 J.O.I.K 日本とハンガリヤとの友誼 放送
 7,8,16 小樽愛善くらぶ 東洋と日本 100名

同氏の講演は直接エス語宣伝ではないが種々の演題の下にエス語で講演をするので、実際はエス語運動上よき効果をあげ得たものである。

次に昭和8年夏北海本部主催の夏期エスベラント学校のため同じくロセフ・マヨール氏来道の際に再度次の如きプログラマーモにて各地を巡回此回は夫々其地の同志諸氏の通訳の下に講演会は開催せられよき記録を残し得た。

日	場	所	演	題	聴衆数	通	訳	備	考
8,		小樽市立高女	ノグゼラント及フンガル	一ヨに就いて及日本の印象について	1000名	福田仁一氏	全和生徒職員		
		小樽市立高女	同	上	1050名	同	氏同	上	
		小樽市立図書館	同	上	400名	〃	主に教員		
		小樽愛善くらぶ	科学と宗教		80名	中村氏			
8,28		苫小牧工業高女	ノグゼラント及フンガル	一ヨについて及日本の印象について		渡部隆志氏	全校職員及生徒		
		苫小牧高女	エス語について(中村氏前座説明に当る)						
			苫小牧と同演題			同	氏同	上	

ハ 展覧会

北海別院に於ける年中行事たる春夏秋冬各其季の大祭に際し北海本部主催にてしばしばエスベラント展覧会を開催して全道よりの多数の参拝者に対し宣伝した。特に昭和7年度の秋季大祭には相当に整ふたる会として開催、其后約1ケ年間、北海本部北光館に常設エス語資料陳列会場を設けて訪問者に対する宣伝に効果をあげた。

次に第1回大会の際には亀岡の本部より資料を借用してマヨール氏 arango により会場たる山部小学校に於てやゝ大規模に公開展覧会を開催した。

又各地方に講師派遣の講習会に際しては終講当日大低携行の資料にて小展覧会を開いて参会者の参考に供した。エス語普及についての話よりも実物紹介はよき効果をあげて呉れる。

ニ 機関誌

北海本部のオルガン「La Norda Brilo」は昭和6年7月にその第1号を謄写印刷で発行、その後昭和青年会山部支部の機関誌「北光」を合併して「La Norda Brilo 北光」となし活版印刷とし昭和8年6月第16号まで発行し、「北光」の廃刊後は暫らく休刊、昭和9年8月より再度新聞紙法に依て「Hokkaido Esperantisto」と題号を変更して単独発行、今日に到る。

「La Norda Brilo」にはエス語にて山部大本運動の経過についての記事を多く書いたのであるが遠く股州方面の同志、エス会などの興味を呼び Literatura Mondo の如き一流誌も交換を望んで来り、又申込(購読)者もあるなど愉快な記録を残してゐる。

「Hokkaido Esperantisto」と改題後は山部の消息に加ふるに北海道に関する各種興味ある問題の翻訳紹介を主としてゐる。海外からも種類の反響があつて面白い。

ホ 演劇、舞踊

エスベラント宣伝劇を種々北海本部にて上演、大祭、大会などの訪問者に普及につとめた。又種々なエス訳の唱歌を児童舞踊「荒城の月」は格別に上出来であつた様である。井上照月氏の録も大層好められたものだ。

III

特種事業

前節に於て記した運動の経過概説に入れなかつたことで、エス普及会北海本部の事業として永く記念すべきことに北海道第一回エスベラント大会と夏季エスベラント学校の開催がある。

1) 北海道第1回エスベラント大会

中村幹事が北大で昭和3年4月、田上予科教授と北大エス会を再興した頃、しばしば田上さんから札幌の運動を盛んにして早く全国大会を招待したいものだと言ふ話を聞いてゐたものだと言ふ。併し本道各のエス会相互の連絡は充分でなく、全道大会と言ふことは考へに出さなかつた。然るに

北海本部の設置以後は全道各地に講師を派遣したり、又皇道大本の運動から地方出向の際地方会の有志と会ふ機会も出来たりして自づと各地方会に対する連絡が密接に出来る様になつて行つた。

第一次北海本部代表者田中省三氏は昭和六年初頭から全道エス大会主催のことを発案して居た。併し同年は皇道大本北海別院の各種建設事業の最も多忙を極めた年で、発案だけで終つた。そして翌七年初頭再び田中氏から今年こそは北海本部で第1回全道大会を開催しようと繰返された言葉が動機となつて、愈々全道へ呼びかけることとなつた。

同年3月苫小牧エス会渡部氏の来訪を機とし案は全く具体化し帯広の三田智大氏堀田勝彦氏等の意見も出で、同月末迄には第一回全道エス大会招待の手紙を北海本部より、渡部、三田、堀田などの諸氏からの賛同の手紙を添へて全道各地方会に呼びかけるに至つた。

この催しに対し普及会本部からはヨゼフ・マヨール氏、井上照月氏を特派后援、漸く緒につかんとする本道エス運動の指導に任じて呉れた事は最も特筆感謝すべきことである。

日程は全国エス大会に倣つて3日間とした。

8月の5、6、7日の三日間がえられた。

第1日 8月5日 金

- 1 開会式(於山部校講堂) 午後2時
- 2 各地報告(同上) 引きつづき
- 3 レクタメトードに依るエス語講習の説明
マヨール氏創案(同校教室にて) 午後4時
- 4 晩餐会(北海本部登龍舎にて) 午後7時

第2日 8月6日 土

- 1 学術講演会(於山部校) 午前
 - a 山部及其付近の地質学 北大理学部 服部幸雄氏
 - b 欧州哲学界の最近の傾向 ヨセフ・マヨール氏
- 2 レクタメトードの説明(第2回) 引きつづき
同 氏

- 3 エス語弁論大会(同校にて) 午後2時
- 4 第1回協議会(同上) 午後4時
- 5 余興の夕べ(於更生殿) 午後8時

第3日 8月7日 日

- 1 第2回協議会(於登龍舎) 午前8時
- 2 新精神運動講演会(於山部校) 午前10時

Postkongreso

1 遠足

北海本部第1農園に行く そこで昼食

2 展覧会(於山部校) 午後2時半

3 特別公開講演会(同)

祝電受信; 鉄道エス聯盟外9氏

祝辞受信; 北大 田上氏外10氏

参加者 ; 8地方会より18名 外にEPA本部より2氏及バハイスト

Fino Agnes Alexander(渡部氏の御紹介による)

第1回エス大会に就いて特に記憶すべきは、北海道エス聯盟(Hokkaido Esperanto Ligo H.E.L.)の結成である。同大会より翌年8月札幌に於ける第2回大会に到る第1年度に於ては該聯盟本部は、おびひろエス会内に設けられたが実際事務は当北海本部に委託された。そして同北海本部内に該聯盟事務局が設置された。

次に同8年8月札幌に於ける第2回大会に際して聯盟本部は帯広より北海本部内に移転された。そして9年9月小樽に於ける第3回大会に際して同聯盟本部は当北海本部の提案に依り札幌市に移転することに決定した。即ち結局第1回大会より第3回大会に到る満2ヶ年当北海本部に於て聯盟の事業を所管の間、聯盟会報の発行合計4回、通信聯絡に資し、Esperantistojのあない地方又は運動の振はなない地方に宣伝の實を上げ、8年度には、Rezolucio pri Neologismo について2 delegitojを日本大会に送つた等はここに記念のため書きそへておく。

2) 夏期エスベラント学校

北海道ではエスベラント運動の先輩と接触する好機を中々持ち得ないことのためにさうした機会を作ることゝ、遡んで各地の同志が或る一定の期間 Esperantujoの生活を共にしたい、そして全道に活気を添へたいと言ふ趣旨のもとに、昭和8年8月13日より1週間北海本部に於て開催。幸ひマヨール氏は此度もはるばると講師として参加、苫小牧エス会の渡部さんも同じく講師として参会。外に北海本部所屬EPA囑託地方講師中村、上野二氏及北海本部幹事増田氏講師に当る。参会者全道各地より計26名全員付属宿舎登龍舎に合宿、Esperantujoの生活を満喫し得て16日には一同芦別山登山をなし頂上ではマヨール氏がNovzelanda Samideanoから送つて貰つたと言ふTieakafuを一同でGustumiしたことなどなつかしい思出の一つである。

この種の計画は全世界各地に於てなる可くしばしば開くとよい。殊に現

在我国のエス界でのぞましい催しであると思ふ。

V

事業一覧

昭和8年5月第一次代表者田中省三氏は朝鮮に転任、その後幹事中村氏が代表者の任に当り事業を進めて居たが、同年7月に中村幹事は京都亀岡EPA本部に転じ、それ以後は増田、上野両幹事が残り事務に当つたが翌9年2月上野幹事は朝鮮京城に移転、同月中村氏は再び北海別院の係員となり同年5月本部よりEPA北海本部に任ぜられ、今日に到つて居る。同時に増田氏は常任幹事に任ぜられたが、尚既に3月には本部嘱託地方講師に補せられてゐて、陣容を次第に備へてゐる。又増田氏と同時に地方嘱託講師に補せられた長谷川守氏は、8年度同氏北大在学中既に北海本部所屬として活動「La Nova Brilo」の文選、校正などに、9年3月卒業後はそのまゝ任地帯広市に於て帯広エス会に加はり、運動に多大の尽力をされてゐる。

次に現在の事業を一覧として紹介する。

A: 常設講座

初等講習: ローマ字をよみかき出来る人又は英語を知つてゐる人で初めてエスペラント語の研究を志す人のために随時開講、一週間終了速成講習。受講者は主に全道各地より来る道道大本の修行者の諸氏である
中等講習: 初等修了以上の程度でその人たちのために開講、作文、訳読、会話、弁論などの練習を目的とする。

希望により適宜短期間速成の便を計る。

各講習用費代共50セシ内外

B: エス語講師派遣

申込により、又は必要に応じ北海道内各地にエス語講習会講師の派遣をなす。

C: 書籍の取次

次の書籍は 石狩国空知郡山部市街地

道道大本北海別院代理部

フリカへ小樽6948番

で委託販売をしてゐるから御申込下さい。

基本エスペラント語彙	20セシ	102
基本エスペラント教科書	25 "	"
新選エス和辞典(改定増補版)	60 "	"

日本語エスペラント小辞典

50セシ 04

出口王仁三郎氏著

エス和作歌辞典

1200 08

その他必要に応じてエス語書籍も取次ぐことになつてゐる。

D: 雑誌購読申込取次

Verda Mondo

月刊 エス初等、中等研究雑誌

巻判 32頁 月15セシ 年150

Oomoto Internacia

月刊 エス文 道道大本及日本紹介

四六倍判 34頁 月20セシ 年240

因に上記二誌は

京都、亀岡町天恩齋

エスペラント普及会 発行

フリカへ大樽61040バン

E: オルガンノ発行

「Hokkaido Esperantisto」を月刊として各地エス会との聯絡に資する。

参考事項

当北海本部は勿論EPA本部の趣意に依り活動するのであるからその趣意を紹介する。

本会は国際間の関係愈々緊密頻繁の度を加へつゝある世界の現状に鑑み絶対中立且つ学習容易なる世界共通語の緊急必要なることを痛感し為にその諸条件を完備せる国際補助語エスペラントを率先採用し之を普及宣伝するを目的とす。

抑、我国は明治維新開国以来滔々として入り来れる欧米文化の吸収に余念なく稍々もすれば皇國の一切をあげて欧米の道に従ふに委ねんとする風あり為めに各方面に亘りて実質的精神的に多大の損害を招くに至り殊に外国語偏重の結果國民の意氣を沮喪せしめ國威を失墜せしめたることを諒しとせず尚に痛嘆の至り也。

此秋に當り本会の創立せられたるは時宜に適したると思ふ可し。之を以て國民の從來受け来れる損失を恢復し且つ国外に向つてはエスペラン

トの内部精神たる人類愛の本義に基き皇国文化の発揚と国際親善の契を
あげんことを期す。

京都・亀岡

エスペラント普及会

国々の詞の玉を集めたる

国際言語は

エスペラント(英西仏蘭亞ン土)

エス和作歌辞典より

昭和九年十二月十五日ザメンホフまつりの夕べ

しるす

苫小牧エスペラント運動史

★ 大正十五年(1926)

四月；森卯之助氏(現神戸市役所)苫小牧工業学校教諭として来任、同年
秋、電気科生徒若干名にエスペラントとは如何なるものを説いたといふ
のが、当地エス運動の産声をなした。

森氏は在任一年余で退去。

★ 昭和二年~三年(1927~1928)

王子製紙変電所の西村慎吉氏独習を以てエス語研究に志され、精勵克く新
語に熟達し、近隣同僚間に宣伝普及大いに力められた。短時日のうちに
HEROLDO の読者となり、広く海外同志とも文通交歓されたが、未だ一般
的運動とはならなかつた。

同氏近來道を転じて運動の中心を去られたが、吾等斯の道に残る者、氏の
再帰を望んで止まない。

昭和三年九月；筆者、渡部独習に発心。死に迫られた病床で学習を初めた
而して Esperanto は私に生還の Espero を与えてくれた。

★ 昭和四年(1929)

一月中旬~三月上旬；苫小牧工業学校土木建築科三年生全部に週二時間づ
つ初講。当時の校長山賀辰治氏(現金沢市立工業学校長)の諒解の許に準
正科として課したもので、之れが本校及び当地に於ける組織的講習の初回
となつた。用書...学会初講。講師；渡部。受講者；38名

四月；新学期第二回講。受講者 32名

九月；本校公開展に際して、Esp. 小展共催

町内受講希望者12名に対して、十月上旬より年末まで町内第一回講習
(渡部氏宅)

★ 昭和五年(1930)

五月；苫工 第三回講習 受講者 25名

九月；町内 第二回講習、受講者 16名。主として王子製紙職員
(渡部氏宅)

十二月十五日；ザメンホフ祭。同時に、苫小牧エスペラント会創立、会長
門脇松二郎氏。(於王子製紙職員クラブ)

★昭和六年（1931）

四月；苫工第四回講習、受講者 27名

六月～十二月；渡部氏北米カナダ視察旅行中、講習中断。

十二月十五日；サメンホフ祭、苫小牧エス会総会

渡部氏帰朝歓迎会、会長門脇松二郎氏暫任、（於富士館食堂）

★昭和七年（1932）

一月～二月；町内第三回講習（於公会堂）受講者15名、内5名は室蘭市より参加し、三島武、佐藤義郎両氏は、後室蘭エス会の中堅となる

二月～三月；町内第四回講習、受講者23名（於鉄道講習室）主として鉄道職員、中3名は道庁より参加

五月；苫小牧エス会機関紙 LA GRANDURSO及渡部氏個人紙 LA NORDA ERUCCO 発刊。

六月十七日；苫工第五回講習、受講者42名

八月；五、六、七、三日間山部に於ける北海道大会第一回に、渡部、門脇両氏出席、同大会に於いて、北海道エスベラント聯盟成る。苫小牧エス会はその所屬会に登録。猶ほ渡部氏の案内にて、Pino Alexander 本大会に出席、途上往復当町に滞在、当地方のエス運動を啓発する処多大、同節歓迎会には当町々長飯田誠一氏も出席挨拶された。

九月；苫工創立十周年記念公開展に際し第二回エス小展共催。受講希望者22名に対して、十日より年末まで双葉幼稚園にて町内第五回講習。

十二月十五日；サメンホフ祭、総会、下記役員互選

会 長 門脇松二郎
講習指導 渡部隆志、鈴木庄一郎
会 計 鈴木春吉
庶 務 岡垣千一郎

★昭和八年（1933）

四月；苫工第六回講習、受講者11名

六月；苫工修学旅行に際し、受講者11名、渡部氏引率各地エス会歴訪（仙台、函館、東京、京都、亀岡、大阪、大津等）先輩諸氏の示教にあづかる処多大。

八月；十三日より一週間山部における Esp. Somera Hejmo に苫工より

り菅原、末沢、田中、中島、森脇の五生徒出席し、渡部氏サメンホフ訳の旧約詩篇研究を受持つ。帰途旭川に寄り同二十一日同地に開催の講習会初日を応援す。

二十七、八、九、三日間山部より帰途の Major 氏及中村久雄氏を当地に迎へ、名勝支那湖へ案内、猶ほ工業学校及高女両校にて Major 氏の講演会（中村氏のエス語に就いて。渡部氏の通訳）開催

九月；苫工第七回講習、受講者25名

二十三、四日 第二回北海道大会に、渡部、岡垣両氏、及生徒10名出席（札幌）渡部氏同大会に於いて北海道エス運動史編纂の件提案す。

十二月十五日；サメンホフ祭、総会

役員全部留任。都合により岡垣氏会計事務を執る。

★昭和九年（1934）

四月～五月；苫工第八回講習、受講者10名、中8名は六月修学旅行の途次学会訪問

六月；ハンガリ人 Fedorâk 氏突然来訪、一夜渡部氏宅で、数々騒ぎ散らし、翌日樽前山へ登ると言つて別れたきり音として消息なし。

九月；苫工第九回講習、受講者11名。本回より用書なしの講習を試む、成績よろし。

二十三、四日 第三回北海道大会（小樽）に渡部、岡垣、川原田の諸氏及び苫工生徒四名出席、本エス会より「Esp. を随意科として本道中等学校に採用方、道庁当局に要請の件」提案、可決、渡部氏委員として文書提出。第一回は何等の反響にも接せず。されど、地方女学校に於ける英語を随意科とせるに成功？したるを以つて先づ一つの喜びとしやう。

十二月十五日；サメンホフ祭、総会。役員改選

会 長 岡垣千一郎
講習指導 渡部隆志、岡垣千一郎、鈴木春吉
会計庶務 岡垣千一郎
編 輯 岡垣千一郎、村山自助

「あまつさえ激務を持たれる岡垣氏に一切の責を負はせた形で、甚だ氣毒であるが事情止むを得ず、こんな風に決つた次第。同氏には更に Fervor」

ista Ligo の方の仕事もあり全く寸暇もない有様。然し Lia plibona duono の内助最近特に甚大に付余り心配はいらない！”

今回当地公教会の Pastro S-ro Kapistrano Kwiotek を名誉会員に迎えた。同氏の Esp 精進は近来素晴らしいものがあり、近い将来に於いて全道エス会に大きな存在を示すに至るであろう。

猶ほ年末騒忙の中に、岡垣氏の尽力で、ザメンホフ祭を契機として苫小牧エス会が久しく持たなかつた町内第六回講習会が開講された。Membro は少ないが熱心な同志の集りなれば大きな実を結ぶであろう。岡垣、鈴木、苫工出身の藤本の諸氏指導、用書 小坂氏エス捷徑、受講者 S-ro 3 S-ino /。

(昭和十年二月現在)

附 記

☆ 以上で一先ず此の稿を終る事とする。

☆ 本会創立以来、最も交渉のあつたのは、EPA の北海道本部であつた。随つて、中村久雄氏との間に公私の出入は相に多かつたのであるが、それ等に関しては、EPA 関係の分に詳述されているので、殆んど全部省略した。

☆ 本会から、昨秋に鈴木庄一郎氏を富山に送り、本年初頭に藤本五郎君を札幌に送つた。諸腕をもぎ取られた様な痛事だつた。

だが、岡垣御大が、ガン張つているから大丈夫だ。それに、S-ino 渡部岡垣、鉄道関係の田中、大沢の諸氏、銀行の鈴木春吉氏、前会長の門脇松二郎氏、役場の村山自助氏等々の優秀な Membroj がそれぞれ懸命な努力を続けてゐるので、前途極めて洋々。

村山自助氏は最近、苫工出身の同志に呼びかけて、同じ鍋につながる二重の Samideanoj の団結を期したいと着々準備中。

☆ 苫工の Rondo も年々多士さいさい、毎年春になると 10 名内外の、確りした若い同志の面々が、全道は勿論、日本本土に、樺太に、朝鮮に、満洲にと播種されて行く。

爽に、希望の言葉の行く処、失望の片鱗だに絶えて見る事は出来ない。

小樽エスベラント運動史

★ 明治三十七、八年日露役後、旭川に於いて現北海タイムス重役山口喜一氏よりエスベラントの輪かくを学んだといふ、向井某氏が同四十年頃小樽市に転住し、個人的に研究を続けた由伝承してゐるが、恐らくは是れが当市に於けるエスベラントの第一声となつた事であらう。然し未だ運動の形を取るには至らなかつた。

★ 現綴物新聞編輯長若桑氏(大正十三年北大出身)は北大在学新語研究を始められ、卒業論文をエスベラントで書いたといふ熱心な同志で、小樽市に於ける運動の先駆をなした。

時あたかも本邦エス運動の沈滞期に当り、然かも北国? 当地に於ける宣伝普及の如何に困難であつたかは充分に推察出来る。

★ その後、個人的に深く研究を進めて居られた川崎三郎氏(製罐倉庫)が主となり、秋田より転住された近藤善造氏を講師として岸鉄工場に於いて講習会が開かれたのは大正十四年の春であつた。当講習会に出席した同志には、岸(岸鉄工場主)、平田(岸鉄)、西田、今村等の諸氏があつた。

★ 大正十四年八月、第一回公開講習会を稲穂男校に開催し、同志 35 名を獲得す。

小樽エス会創立、税関の相野氏宅に事務所を置き小樽エス界の華々しき時代を現出せんとする機運は漸く熟して来た。

★ 大正十五年 第二回公開講習会を同校に開き同志 20 名を得た。猶ほ此頃より単独で研究する者、工場に、銀行に、会社等に等々続出した。

★ 昭和に入り、当地のエス運動に社会運動的色彩を混入し、それ以来 Socialisma なものと Generala なものとが分岐した。之れは独り小樽市のみならず全国的な動きであつたのであるが、近藤、岸氏等の既成エス会には何等の動揺もなく発展をつづけた。

★ 昭和二年~五年 此の間は近藤氏、岸氏の事務多忙と、相野氏の岩手県への転出等で、漸次運動は活潑を欠くに至つた。

★ 昭和五年十二月~翌一月 川崎氏指導で小樽新聞社で初等講習。受講者 7 名、新しくヴェラ・エス・ロンドを創む。

★ 昭和六年四月 市内奥沢青年団主催で奥沢小学校に公開講習会、講師近藤、川崎両氏、受講者80名に及ぶ。

同年六月十四日、小樽エス会の更生を見、事務所を奥沢町の藤川氏宅に転じ陣容を一新した。同日は出席者30名の外に、折柄入港中の独乙練習艦エムデン号からも3名の同志出席す。

★ 昭和七年四月十七日～二十四日 十五郡番屋に短期初講習会、75名出席、別に同月大本の提主介氏指導で大本部内の講習会あり、同じく75名の新同志を加ふ。

その後 Antaſien 会誕生、提氏の後は辺見氏指導に当り、輪談式の講習会を続けた。

此の頃、北海道エス聯盟の議起り、両会の合同が問題になつたが各々の事情でそのまゝになる。

★ 昭和七年七月十八日 十五郡番屋に第一回エス会例会を持、月二回以上の集会を願す。

★ 昭和七年九月 小樽エス会第二年度の総会に於て役員を改選し、事務所を富岡町辺見氏宅に転ず。

★ 昭和七年十二月十五日 両会合同のザメンホフ祭を持つ。

★ 昭和八年一月 辺見氏病氣のため会務を退き再び藤川氏任に当る。此の年福田仁一氏当地に来任、小樽エスグループを創設。Antaſien 会と合同續いて同九年度当市開催の北聯第三回大会の準備上、小樽エス会とも合同し、全小樽同志を一丸として、小樽エス協会が成立し茲に小樽エス界は空前の進展を示した。

★ 斯くして昭和九年九月二十三、四日両日 輝かしい記録の数を残した第三回大会を当市に招じ、小樽市エス運動史上に劃期的足蹟を印したのであるが、本大会の詳細は不日発行される Protokolo に依て諒知せられたい。

目下会員20余名、夫々精進一途前進を続けつつ将来に何物かを約束してゐるが如くである。(昭和九年九月二十六日現在)

以上、小樽エス協会の辺見氏の記録に基いて同地エス運動の概要を摘記しました。誤記、脱漏等あらば同地同志諸氏の訂正補足を請ふ。

苫小牧 渡部 隆 志

帯広エスベラント運動小史

★ 大正×年(年号不詳) 三田智大氏札幌より十勝農業学校に来任され、エス語の宣伝、講習等積極に開催し熱心な運動を続ける。

★ 昭和二年八月 三田智大、中村久雄両氏を講師として帯広小学校に初等講習会を開く。会員六十余名

★ 昭和三年八月 双葉幼稚園に講習会を開きしが会員十余名にして三回程にして継続せず、其の後曾根原博利、堀田勝彦、三浦吉男の諸氏を加へ帯広信用組合其の他二、三の個所にて会合を持つ。

★ 昭和七年三月 原田三馬氏稚内通銀支店より転任し来り、上田一男、廣谷信幸の両氏を加へ十勝に於けるエス運動の本格的一步をふみ出す。

★ 同年八月 三田氏を講師として音更村、本別村に初等講習会を開き相当の成績をあげ。

★ 昭和八年一月 三田氏青森県五所川原農業学校(現在三本木農業学校)に転任、同年五月曾根原氏東京に転任し、堀田、上田、廣谷、三浦の諸氏それぞれの事情からエス運動より遠ざかり、帯広エス会の重大危機を招来せるも、原田氏を中心とせる講習会は幾度か繰返された。

★ 同年八月 農デパート四階を借受け、外国通信文を主とした雑誌、ポスター等陳列し大いにエス運動の氣勢を挙げ。

★ 同年十二月より翌年二月迄池田町に講習会を開く事に成功し毎週日曜日に帯広より原田氏参加し応援す。

★ 昭和九年一月より初等講習会を開く事実に十余回に及び、会員の数も増加し今や確固たるエス運動の基礎を築く。

★ 現在帯広エス会幹事諸氏・・原田三馬、長谷川守、沼田芳蔵、佐藤松男、森本三郎、武石四郎、紺野ケイ、黒沢正子、廣谷文治、堀中弥生

旭川エスペラント小史

今より三十年前頃、七師団の將校で幾人かの方々がエスペラントを深く研究されて居たことがあり、又同年頃に現北海タイムス社重役山口喜一氏が研究して居られたとのことである。それよりずうつと越えて大正十三年頃旭川中学の星先生、鉄道の梶原孝治氏等が研究されて居た。(追記)

旭川にエスペラント運動の起つたのは、昭和七年三月二十八日(勿論その以前にないわけではなかつたが)第一回エスペラント講習会を実科高女に開催したのがその始めであつた。講師は中村久雄氏で集つたもの二十余名、其の後一通間の講習を終り「旭川エスペラント普及会支部」を結成し、小口氏常任幹事となり事務一切を処理することにし、梶原、高橋、高宮等の諸氏が幹事となつた。

四月十六日夜 第一回の研究会を市内岐阜屋旅館で開く。出席者八名。以後六月十二日に至るまで九回開いた。輪講の形式をとり、最初は「エスペラント中等読本」を用ひ、中途より「Bzopo」に変更した。

斯く会を重ねるうちに私と梶原、高橋両氏との間に、普及会本部は京都の大本教の当事者が自己の宗教(?)普及の為にエスペラントを全国各地に普及し併せて信者獲得の手段に外ならずとし、我々三人熱意協議の結果、昭和九年七月一日ここに「旭川エスペラント研究会」を組織し、純粹の語学研究に邁進したのであつた。所が受講者の大多数が大本教信者であつたため、研究会も自然僕等三人と高宮氏を加へた四人になつてしまつた。そのうちに中村氏の第二、第三の講習会が開かれた。高宮氏も来られなくなつて我々三人の集まりは十数回続いたがお互に俗務に追はれて自然と解消するに至つたのは誠に残念であつた。

其の後昭和九年八月初等講習会が開かれた。講師は小口多計士氏、受講者は七名。併し大半は高宮愛子氏と増田氏が指導に当られた。講習途中会場を実科高女から大本教支部へ移し、受講者の気分を大いにこはした。このやうな不始末で其の後一、二回集まつたが写真を撮つても写真代を呉れぬなど、常任幹事氏の不真面目な言行の爲遂に立消の止むなきに至つたのは誠に遺憾な事であつた。

而るに本年七月武田氏の御尽力と、渡辺先生並に高宮氏の深き御厚意により、武田氏を会長として「旭川エスペラント会」の誕生を見た事は欣快に堪えぬ次第であつた。会員は武田、当麻、福島、関口、末沢、森脇、高宮、竹吉八名。其の後増田氏が片岸、楠本の両君を紹介された。然して帯広エス界否全北海道エス語界の重鎮原田三馬氏の御紹介により木津、池田、菅沼、北出四氏の入会を見未熟な私が講習に当つた。

その後第二回初等講習会を木津氏宅にて開催、出席者九名、定刻前に集會将来よきエスペランティストとして第一級に活躍せんと意気誠に喜ばしい次第である。九月二十八日講習會終了。次回からは童話読本によつて中等講習に進む予定。

一方武田氏宅で中等研究会を毎週水曜日に開催、現在は「ザメンホフ読本」の輪講を試みてゐる。又高宮氏は自宅にて毎日隔初等講習会を開いてゐる。受講者は岩崎、小笠原、高田、寺島、坂田の諸君。また別に森本夫人に教授をやつて居られる。近に将来に高宮氏の抱懐せられる Virina Rondo も華しく誕生すると思ふ。之等諸氏の活躍を期待する。

目下第三回初等講習会のポスターを会員総出で市内各所に貼付、十月十五日より講習を開く予定、現在既に二十人近くの申込者がある。

それから最後に新会長木津氏と会員二、三氏が市内各中等学校並に小学校の教員諸氏に、エスペラントの趣意書、並に、中等学校英語問題とエスペラントなるパンフレットを配付、中等英語科教員諸氏の絶大なる支持と賞讃を得ている事を地方各会員諸氏に御報告閣筆させていただく。

(昭和十年九月三十日)

竹 吉 正 広 編す

★ 昭和八年の第2回北海道大会に於て西小牧エス会渡部氏より提案され可決された本史は、その後3年を経て漸く発行するに至つた。

★ この運動史は、各地方会がその地方の運動史を編纂することになつて居たため、その編纂方針もまちまちであり、不統一の感みもないではないが、ともかくもこれ支けに纏めあげること後記の出来たことは、一つの大きな収穫である。

★ 試みとして、年表を作つてみた。この巻中に収録されただけの資料で、しかも不用意な取捨であつて、不完全のそしりはあらうが、この運動史を整理する意味において何等かの益するところあれば望外の喜びである。今後諸氏の指導を仰いで少しでも完全なものにしたいと希んで居るので、御氣付の点があつたら御指示あらんことを願ひます。

★ 各地方会に於ても、本は訂正すべき点や補遺すべき事があるやうに見受けられますので、例年御研究の上第2次の運動史発行に備えられんことを望みます。

★ 日本大会を間近に控えて、この運動史を発行し得るに至つたことは、北海道のエス運動に拍車をかけるものとして諸氏と共に喜に堪えない次第である。(佐藤 徳 裕)

昭和十年十一月二十日印刷納本

昭和十年十二月一日発行

編輯印刷発行人 相沢 治 雄
札幌南3、西/3

発行所 北海道エスベラント聯盟

西 暦	北 海 道	日 本	国 際
1859	安政 6		12月/5日：誕生
1878	明治 11		2月5日：日学友と世界語の誕生を祝ふ
1887	20		7月：第1巻を発行す
1905	38	個人研究時代 38年迄	第1回万国大会、プロエニスルメール(仏)に開催
1906	39	組織普及時代 6月/2日：日本エスベラント協会設立	第2回万国大会オザネバ(瑞)に開催
1907	40	9月28日：東京に第1回ESP.大会開催	第3回万国大会ケムブリッジ(英)に開催
1908	41	第2回大会東京に開催(以後不恒に開催)	第4回大会ドレスデン(独)に開催

個人研究時代
日本のエスベラント運動が漸くその端につかんとした当時、文化の未開拓な北海道にあつて、エスベラントなるものを知り且研究して居た人達は極く僅かだつたと容易に想像されるが、記録に残はれたものを拾つてみれば、明治年間に飯田氏(札幌農学校)、山田喜一氏(北海タイムス)、河井(小樽)、某齒科医(札幌)、将校教名(旭川)等であつて、研究の程度も不明であり勿論運動の第一歩を踏みこみでには至らなかつたと思はれる。大正に入つても永く個人研究がつづけられ、8年本道文化の源泉とされた北大に「北大エスベラント会」が生れるに及び、本道エス運動の華は咲く

1909	42	に至つた。		第5回大会バルセロナ(西) に開かる
1910	43			第6回大会ワシントン(米) に開かる
1911	44			第7回大会アンペルス(ベル ギー)
1912	大正 元年		暗黒期 (大正/年より4年まで)	第8回大会クラコウ(ポーラ ンド)に開く (E8P.25年記念大会)
1913	2			第9回万国大会ベルン(瑞) に開催
1914	3			第10回万国大会パリに開 催せんとするも大戦勃発 中止
1915	4		帝大エッセ会創立(以後学 生の運動盛となる)	第11回大会サンフランシス コ(米)に開かる
1916	5		9年振りで東京に第3回 大会開かる	

1917	6		第4回大会東京に開かる	4月/4日;ザメンホフ永眠す
1918	7		第5回大会(東京)	
1919	8	組織普及時代 ・2月中旬;「北大エッセベラント会」生る 北大在学中の三田氏はこの年より本格的研究を 始め同氏指導の下に学生/0名ばかり研究をつ ゞけ同会が生れるに至つた。 ・5月;高橋邦太郎氏タイムス紙上を通じてエス ベラントの宣伝をなす。	第6回大会(横浜) /2月20日;従来の日本エ ス協会改組され「日本エス 学会」生る	
1920	9	・5月/2日;小坂彌二氏札幌鉄集会所にて宣伝講演 会出席/50名 ・6月;「札幌エッセベラント研究会」生る 6月24日同会最初の講習会 受講者は/86 名に達した。 ・9月;小樽に最初の講習会開かる	復興期 第7回大会(東京) 各大学、専門学校にエッセ会 設立さる	第12回万国大会ヘーグ (和)に開く
1921	10	・引き続き札幌、函館等に講習会開かる	第8回大会(東京) 東北地方へ学生宣伝隊旅行 す	第13回大会ブラハ(チエコ) 第14回 S A T (同上)
1922	11		第9回、第10回大会(東 京) 学校に於けるエッセ語教授促 進の請願下院に於て採択さ る	第15回万国大会ヘルシンキ() S A T 第2回フランクフルト (独)

			る エス語の社会的関心を る	
1923	12	・学生エス語宣伝隊乗道 当時学生であつた石黒修、岡本好次、佐々木孝丸氏等本道各地に宣伝旅行をなす(5, 3 / 函館、6, 1 / 小樽、3 / 札幌、6、旭川、7 / 室蘭) ・当時本道の学会々員数及び名に達す(札幌30 / 函館15、小樽7、室蘭9、他27)	第1 / 回大会(岡山) エスベラント普及会生る 学会々員2500名に達す	第15回大会ニューヨーク ヒ(独)に開催 S A T 第3回大会カンペン (独)
1924	13	・1 / 月:「函館エス会」生る 設立当時会員/々名、12月迄に12回講習会を開く	第2回大会(仙台) S A T 分科会持たる	第16回大会ウイン(環) S A T 第4回大会ブルグセル (ベルギー)
1925	14	・「小樽エス会」創立 ・虎渡、橋本両氏(函館)第17回万国大会に出席	第3回大会(京都)	第17回大会ゼネバ(瑞) S A T 第5回大会ウイン (独)
1926	昭和 1	・「札幌エスクラブ」生る 札幌エス研究会 解消間もなく上記名にて更生 ・樺太豊原に樺太エス学会の講習あり	日本エス学会委員制を止め 財団法人組織となる 第14回大会(東京)	第18回大会エジンバラ(英) S A T 第6回大会レニンダ ート
1927		2	第5回大会(静岡) 9月:JOCKで扶国最初の	第19回大会デンヒツチ(独) S A T 第7回大会リヨン(仏)

		エス語講座を派遣		
1928	3		第16回大会(大阪)	第20回大会アンペルス (ベルギー) S A T 第8回大会グーデ ホルグ(瑞)
1929	4	・1 / 月:苫小牧工校教諭渡部氏同校生徒健にエス語を準正科として講習 ・2月26日:「札幌エスベラント会」生る 北大エス総会にて従来の札幌エスクラブ解消同会生る ・7月/2日:「エスベラント普及会北海道本部」山部に生る ・7月:「帯広エス会」生る ・「札幌エス会」生る ・12月20日:「函館エスベラント会」生る 在来の函館エス聯盟、エス会等を含して	第17回大会(東京) 第21回大会ハンガリア、ブ ペストにて S A T 第9回大会ライプ ヒ(独)	
1930	5	・6月11日:「札幌エスベラント会」結成 (参加会)北大エス会、札幌エス会、札幌エス会、希望エス会、他個人 ・山本佐三氏(札幌)訪欧、第22回大会に出席 ・12月/5日:「苫小牧エスベラント会」生る	第18回大会(金沢)	第22回大会オックスフォ ード(英) S A T 第10回大会リン ドン(英)

1931	6	・4月；「EPAたかす支部」生る ・6月/4日；「小樽エス会」更生す ・6月一/2月；渡部隆志氏（苫）北米視察	第19回大会（京都） 日本エス運動25周年記念大会	第23回大会クラコウ（液） SAT第1/回大会アムス デルダム（和）
1932	7	・4月；「旭川エスベラント警及会支部」生る ・5月；「Antauen 会」（小樽）生る ・6月；「黒松内エスベラント警及会支部」生る ・6月；「釧路エス会」生る ・7月；「根室エス会」生る この年及び翌年、EPA北海本部の運動活動にして各地に亘り講習会、講演会等を開き、遂に北海道エスベラント大会開催に至る ・8月5—7日；第1回北海道エスベラント大会出席者23名。同大会に於いて ・「北海道エスベラント聯盟」結成す ・8月/4日；ヨセフ・マヨル氏札幌放送局（JOIK）より「日本とハンガリアの友情」についてエス語講演をなす	第20回大会（東京）	第24回大会パリ—（仏） SAT第2/回大会
1933	8	・/月；「稚内EPA支部」生る ・「小樽エスクラブ」生る。後 Antauen 会と合同 ・4月/5日；北大赤化事件起る 同事件の余波を受けて北大エスベラント会解消す	第21回大会（京都）	第25回大会ケルン（独） 第13回 SAT 大会

1934	9	・9月23—24日；第2回北海道エスベラント大会（札幌）出席者32名、協議事項 北海道エス運動史編纂の件、ネオロギスモ排斥の件、赤色分子排斥の件 等 ・/0月；「帯広エス会」生る ・5月—6月；フエドロチャツク氏来道各地を訪問す ・7月；「旭川エスベラント研究会」生る ・9月23—24日；第3回北海道エスベラント大会。出席者47名。協議事項 本道中等学校にエスベラントを随意科として採用方を道庁当局に要請の件、第24回日本大会を札幌に招待の件	第22回大会（長崎）	第26回大会ストックホルム（瑞） 第4回 SAT 大会
1935	10	・3月；瀧美氏（札幌）、4月；渡部氏（苫小牧）5月；原田氏（帯広）の諸氏本道より去らる ・7月；「旭川エスベラント会」生る。 ・8月3—4日；第4回北海道エスベラント大会（帯広）出席者25名。協議事項 全道各中等学校にエスベラントを随意科として採用方当局に請願の件、その他 ・9月22日；名古屋大会に於て北海道エス聯盟提出の第24回大会札幌市に招待の件可決さる	第23回大会（名古屋）	第27回大会ローマ（伊） SAT第5/回大会

覆刻再刊にあたっての記

本冊子は1935年にかり版謄写印刷で発行されたものの再版です。初版本の中の日漢字は活字の都合上すべて新漢字に改めました。本冊子10ページには、第1回北海道エスペラント大会の記念スタンプがあるはずですが、複写不可能のため省略しました。

本冊子の初版発行のいきさつおよび解説は、LEON TOSIO n-ro 50 (1973年)に相沢治雄さんが言っているので、参照してください。

第35回北海道エスペラント大会(1971年苫小牧市)で、北海道のエスペラント運動の貴重な歴史的資料である本冊子の覆刻再刊が決定されてから、3年の歳月が流れました。本書の発行にあたって、タイプ打ちというのんどうな労と、ずんずん引き寄せられた北島 隆さんに、心から感謝いたします。

1974年8月5日

北海道エスペラント連盟

Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo

LEONTODO

N-ro Ekstra

覆刻再刊

北海道エスペラント 運動小史

〒053-0844
苫小牧市宮の森町
2-18-18

星田 淳

We Support
unicef 

LEONTODO n-ro ekstra

1974 年 9 月 15 日

発行所 北海道エスペラント連盟

060 札幌市中央区南2.西4. 中央タイピスト学院内
TEL 251-4750
振替口座 (小樽) 17075

編集

「北海道エスペラント運動小史」覆刻刊行準備委員会

tajpis; Kitabatake H.

配布価

9-1974